

自ら**学ぶ力**をはぐくむ  
豊かな**心**をはぐくむ  
健康な**体**をはぐくむ  
郷土**愛**をはぐくむ

# 県北プライド



「夢をかなえる教育」「笑顔あふれる学校」をめざして 校長 阿部 央

## 特設駅伝部 県北プライドを発揮してきました。

9月1日(火)に中体連駅伝競走大会  
県北地区予選会があづま運動公園内周回  
コースで行われ、本校特設駅伝部も出場  
してきました。

女子は5区間、男子は6区間で行われ、男女ともにしっかりと最終ランナーまでタスキを繋ぎ切りました。成績は男子が34位、女子が20位でした。

常設の陸上部を有する学校も出場する中、練習量では遠く及ばないにもかかわらず、本校特設駅伝部員は夏休み期間や放課後の練習に集中して取り組んできたことで、大会当日はそれぞれが自分の力を発揮し切ることができたようです。

保護者の皆様方のこれまでの応援とご協力に改めて感謝申し上げます。



【学校出発前のあいさつ】



【生徒会応援メッセージ】



【帰校のあいさつ】

## 新たなスタッフが加わりました。

～児童生徒の安全を確保し、教員の多忙を解消するために～

令和2年度福島スクール・サポート・スタッフ事業(市町村立学校新型コロナウイルス感染防止対策)で、本日9月4日(金)より、幕田 佳子(まくた けいこ)さんが新たなスタッフとしてご勤務いただくことになりましたのでお知らせいたします。

新型コロナウイルス感染防止のための校舎内外の消毒業務等の補助や学習プリントの印刷、配付文書の印刷・仕分け等が主な業務となります。

新型コロナウイルス感染症の拡大によって教職員の業務量はますます膨れ上がってきました。新たなスタッフが加わることで、本校教職員の多忙な日常の改善が少しでも図られればと思っております。

## 教員の勤務実態 ～働き方改革を進めるために～

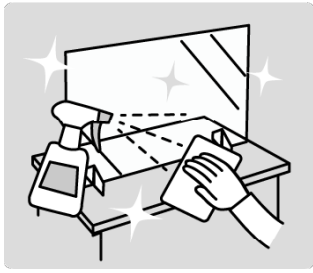
日本の教員の多忙な現状については報道等で度々取り上げられてきたことから、保護者の皆様もご存じかと思えます。

平成18年度に文部科学省が全国の公立小中学校教員約5万人を対象とした勤務実態調査を実施したところ、勤務日で約2～3時間、時間外勤務や仕事の持ち帰りが恒常的に行われている実態が報道されました。

10年後の平成28年度に文部科学省が実施した同様の調査で、教員の長時間勤務がさらに深刻化している状況が明らかになりました。

福島県教育委員会でも教員の長時間勤務の改善を目指し、県教育庁内に「多忙化解消プロジェクトチーム」を開設するとともに、PTAなどの各種団体の代表の方も加わった「多忙化解消拡大プロジェクトチーム会議」を定期的で開催し、「教職員多忙化解消アクションプラン」を策定しました。このプランに毎年改訂を加えながら多忙化解消に向けた取組を全県的に進めているところです。





本校教職員（管理職及び事務職員を除く）の勤務実態ですが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休業が完全に解除された6月における正規の勤務時間を超えての在校時間は、16名中12名が45時間以上、内1名は過労死ラインとされる80時間以上でした。ちなみに、本校の勤務時間は午前8時から午後4時30分です。

私も昨年度まで「多忙化解消拡大プロジェクトチーム」の一員だった立場として、さらには本校の校長の立場として、自分のいたらなさを痛感しているところです。

県教育庁に勤務していた当時の上司が、日々の思いとして県教育委員会のメールマガジン「うつくしま教育通信」に寄せた原稿の一部に次のような記載があります。

学校には、「休日に行われる町のイベントに子どもたちを参加させてほしい。」といった多くの依頼が寄せられます。また、「生徒が事故に巻き込まれた。」と夜間に連絡が入れば、教員が緊急対応することになります。さらに、ネット依存や肥満・虫歯など健康上の課題への対応にも追われていますが、これらは家庭の主体的な取組なくして解決しえないものです。誤解を恐れずに言えば、教員の長時間勤務や多忙感、負担感の背景には、学校が家庭や地域との間で「守備範囲」を広げざるを得なくなったことによる業務の増大があると考えています。

教員が元気に子どもたちの前に立って、子どもたちと一緒によりよい授業を創っていくためには、たとえ微速であっても教員の業務改善に努めていかなければならないと考えています。

今後、地域の皆さまのお力をお借りすることがあるかも知れません。その際はどうぞよろしくお願い申し上げます。



## 地域の皆さま ありがとうございます。

### ～1学年「国見を知る」 2学年「ゲストティーチャーから話を聴く会」～

9月3日（木）総合的な学習の時間に、1学年・2学年それぞれに地域の行政機関や各種職場にお勤めの方々から貴重なお話をいただく機会を設けました。

私は出張のためお聞きすることができませんでしたが、1学年は町教育委員会の方から「国見町の現状や教育」について、2学年は様々な職場においてご活躍されているの方々から「仕事に対する思いなど」の話を伺ったとの報告を受けております。

中学生は近い将来、職業人として活躍していきます。「よりよい自分の未来を創るためにはどうあればよいか。」を模索しながら、様々なキャリアを積むことで「よりよい未来社会の創り手」となっていきます。学校以外の地域の様々な人との関わりから学ぶことの意義はとて大きいと考えます。1・2年生にとって大変貴重な時間になったはずです。

あらためまして、講師をお引き受けいただきました皆さまはもちろん、講師の方々を派遣いただきました各職場の代表者の方々に感謝申し上げます。



【1学年 国見を知る】



【2学年 ゲストティーチャーから話を聴く会】